

新里エリア



ペンション ミュージックヴィレッジ
がるば

桐生カントリークラブ

11P

黒保根へ

●新里のサクラソウ群落

★ぐんま昆虫の森

見学 体験

桐生市新里町鶴ヶ谷460-1

☎0277-74-6441

開 4月から10月 9:30~17:00
(入園時間は16:30まで)
11月から3月 9:30~16:30
(入園時間は16:00まで)

休 毎週月曜日(ただし、月曜が祝日のときは翌火曜日)
年末年始(12月27日から1月5日)

料 一般 410円 大学生・高校生 200円 中学生以下 無
(団体料金あり)

交 北関東伊勢崎ICより車で20分

園内には雑木林や棚田、桑園など日本の原風景が広がり、自然観察や里山体験ができます。地上3階建の昆虫観察館には広い生態温室もあり、一年中亜熱帯のチョウを観察できます。

グルメ

物産

絹遺産



龍真寺ぼたん園

みどり市へ

渋川市・前橋市へ



野の大クスノキ

至中央前橋 上毛電気鉄道

新里支所

新里

新川

16 ガーデンタナカヤ P25

多賀城 P21

ここもチェック!!

- ★ おかめ桜・お角桜 見る 花 28ページへ
- ★ サクラソウふれあい公園 見る 花 28ページへ
- ★ 赤城寺のシャクナゲ 見る 花 28ページへ
- ★ 龍真寺ぼたん園 見る 花 28ページへ

みどり市へ

カリビアンビーチ

★



★2 カリビアンビーチ

桐生市新里町野461
☎0277-70-2121

遊ぶ

開 10:00～21:00(入館20:00まで)
休 毎週木曜日(季節変更あり)
料 季節で異なる
交 北関東伊勢崎I.C.より車で15分

関東最大級の全天候型室内プールで、ダイナミックなカリブの海をイメージした常夏の楽園です。波のプールや流れるプールのほかウォーターライダーやロデオマウンテン等のアトラクションも大人気で、大波でボディボードも楽しめます。



新里の遺跡群

この地域を語る上で外せないのが、貴重な歴史的遺物の数々。東国文化をしのばせる中塚古墳や、山上の多重塔、関の磨崖物などの仏教遺跡。点在するスポットを巡れば、古代から近世に至る歴史散歩が楽しめます。

★3 山上城跡公園

桐生市新里町山上297-1
☎0277-74-2217

県指定
史跡

遊ぶ



安土桃山時代



ロウバイ
2月頃

にいさと新能
城跡に特設舞台を造り、能を上演します。かがり火揺めく幽玄の世界は他ではなかなか味わえません。

☎0277-74-4151
交 新里駅から20分

県指定史跡の山上城跡を整備した公園で芝生広場やローラー滑り台などの遊具が人気です。ロウバイ、アジサイなど花の名所でもあります。

★4 相澤忠洋記念館

桐生市新里町奥沢537
☎0277-74-3342

見学

県指定
史跡



旧石器時代

開 10:00～17:00
休 月曜日
交 北関東伊勢崎I.C.より
車で20分

故相澤氏は日本に旧石器時代が存在することを立証した岩宿遺跡の発見者です。館内には歴史を塗り変えた槍先形尖頭器等多数の資料が展示されています。

★5 関の磨崖仏

桐生市新里町関67-1

県指定
有形文化財



鎌倉時代

交 北関東伊勢崎I.C.より
車で20分

鍋木川のほとりにある、赤城山から運ばれた凝灰岩に三尊像が半肉彫りで刻まれ、朱塗りの跡も確認できます。鎌倉時代のものと思われます。

★6 山上の多重塔

桐生市新里町山上2555

国指定
重要文化財



平安時代

交 新里駅から20分

平安初期の801年に建てられた供養塔。塔には安楽と平和を願う45の文字が刻まれ、当時の仏教文化を知る上で貴重な遺産となっています。

★7 武井廃寺塔跡

桐生市新里町武井598

国指定
史跡



奈良時代

交 新里駅から10分

昭和16年に古代寺院の塔の心礎と推定され、国指定史跡となりましたが、その後の調査で奈良時代の火葬墳墓という見解もあります。

★8 中塚古墳

桐生市新里町新川2592

県指定
史跡



古墳時代

交 新里駅から10分

丘陵地に造られた直径38mの円形古墳で、重厚かつ精巧な造りの石室は見事です。7世紀後半にこの一帯に勢力のあった新川氏の墳墓と推定されています。

A dark red double-decker train is shown from a front-three-quarter perspective, moving through a tunnel. The tunnel walls are densely lined with cherry blossom trees in full bloom, their white and pink flowers creating a soft, ethereal atmosphere. The train has a small blue and yellow logo on its front and the number '313' visible. The scene is captured in a cinematic style with soft lighting filtering through the blossoms.



けいこくてつどう こ じ せ けいこく

☎ 0277-73-2110 (わたらせ渓谷鐵道)

眺める

交 桐生駅、下新田駅、相老駅、運動公園駅、本宿駅、水沼駅で乗降できます。

桐生駅と間藤駅(日光市足尾町)を結ぶわたらせ渓谷鐵道。開放的なトロック列車も走るこの路線は、ゆったりと走る車窓から望む風景が四季折々に姿を変え、旅行く人たちの目を楽しませてくれます。特に、本宿駅から水沼駅の間の「古路瀬渓谷」と呼ばれる一帯は、沿線でも有数の紅葉スポットとして知られています。

なしきおんせん なしきかん

泊まる 温泉

 0277-96-2521

交 北関道伊勢崎I.C.から
車で40分

征夷大將軍坂上田村麻呂により
1200年前に発見されたといわ
れる、市内唯一の温泉旅館です。
泉質は褐色の含食塩炭酸泉です。



みどり市へ

9P

★ 水沼駅温泉センター

桐生市黒保根町水沼120-1
☎ 0277-96-2500

開 11:00 ~ 20:00
休 年中無休
料 大 人 600円(税込)
こども 400円(税込)



猿川温泉を引湯し、水沼駅に直結した温泉センターです。渡良瀬川の渓谷美を堪能しながら、ゆとりの入浴タイムを露天風呂で楽しんでみませんか。効果はリュウマチや婦人病など広い適応があり、連日にぎわいをみせています。

温泉
食べる

★ 医光寺本堂の彫刻欄間

桐生市黒保根町上田沢326(医光寺)
☎ 0277-96-2300

開 お問合せください
交 水沼駅より車で10分



肉厚の透かし彫りが圧巻の欄間は、その圧倒的な技量から伝説的な彫刻師になぞらえて「上州の左甚五郎」と称された名工、関口文治郎の手になるものと伝えられています。見学の際は電話で確認を。

市指定重要文化財
見学

★ 黒保根溪流フィッシング

桐生市黒保根町下田沢1874-1
☎ 0277-96-2099

開 4~9月 6:00~18:00
10~3月 7:00~16:00
休 無休
交 北関東伊勢崎 I.C. から車で50分



小黒川の清流から引水し、ルアー、フライ、えさつり等が楽しめます。各種つり大会が開催される、本格的な釣りスポットです。

遊ぶ

★ 正円寺・深沢城跡

桐生市黒保根町宿廻564
☎ 0277-96-3177

交 本宿駅より車で5分



渡良瀬川上流域は古くから「黒川衆」と呼ばれる武士が支配しており、黒川衆の有力氏族である阿久沢家が本拠としていたのが深沢城でした。周辺の黒川郷は渡良瀬川流域の要衝であるため、上杉、武田、真田、北条といった大名の間で争奪戦が繰り返され、最終的には廃城となります。二郭跡地には正円寺が移され、帰農した阿久沢家の墓もここにありま

眺める

★ 星定観光農園

桐生市黒保根町下田沢624
☎ 0277-96-3708

開 8:00 ~ 17:00
休 不定日(要予約)
交 水沼駅より車で10分



ぶどう狩り、芋掘り、栗拾いなど都会では経験できない農作業が体験できます。自家製の乾燥芋は自然食品として人気です。また、手打ちそばは昔ながらの製法でコシがあり風味豊かな味わいは絶品です。

体験

★ 田舎体験のうえん めぐり屋

桐生市黒保根町宿廻651-3
☎ 0277-96-2077

開 10:00 ~ 14:00
休 不定日(要予約)
交 本宿駅より車で10分



田植えや稲刈り、野菜の収穫など、農作業の体験ができるほか、自分で採った野菜を使った料理教室も行っています。

体験

黒保根エリア お問い合わせ先 ☎ 0277-96-2113

黒保根三奇石

田沢川をはさんで向き合う亀の形をした「亀石」、触れるとイボが治るといふ「イボ石」、同じく溜まった水で洗い続けるとイボが取れるという「エボ石」。この三つを黒保根三奇石と呼びます。中でもイボ石は太古の微生物の化石であった事が近年判明しました。

眺める

★ 亀石

桐生市
黒保根町上田沢

交 水沼駅から車で15分



★ イボ石

桐生市
黒保根町上田沢

交 水沼駅から車で17分



★ エボ石

桐生市
黒保根町下田沢

交 水沼駅から車で15分



黒保根と赤城山

あそぶ 眺める

「くろほ」は赤城山の古い呼び名。その名の通り黒保根と赤城山の関係は非常に深く、かつては赤城山観光の玄関口でした。キャンプ場を足がかりに、赤城山を存分に楽しんでみては。



★ 利平茶屋森林公園

桐生市黒保根町下田沢赤面国有林内

開園期間(5月1日~10月下旬)
☎ 0277-96-2588

閉園期間... 0277-96-2113

料 お問合せください

標高1,000mの赤城山登山口にある利平茶屋森林公園。木立に囲まれた園内では鳥居川の清流でイワナ釣りが楽しめ、バーベキュー用の東屋でのバーベキューは自然満喫、お腹満腹です。



★ 花見ヶ原森林公園

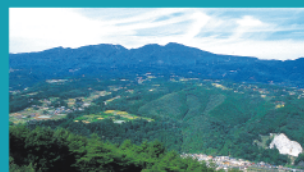
桐生市黒保根町下田沢赤面国有林内

開園期間(5月1日~9月下旬)
☎ 0277-96-3131

閉園期間... 0277-96-2113

料 お問合せください

赤城山の東腹、標高1,200mにある花見ヶ原キャンプ場はバンガロー、テントサイトのある大自然のなかのキャンプ場です。



★ 荒神山展望台

桐生市黒保根町

☎ 0277-96-2113

ぐんま百名山のひとつである荒神山。頂上に整備された展望台からは荘厳なパノラマが広がります。黒保根町を一望できるほか四季により変化する赤城山の色彩を楽しむことができます。

重伝建エリア

映画やテレビのロケ地もたくさん

桐生新町重要伝統的建造物群保存地区

当地区は、天正19年(1591年)に徳川家康の命を受け、代官大久保長安の手代大野八右衛門により新たに町立てされた在郷町として発展。保存地区は、絹織物業を中心に発展した町、桐生を示す象徴的な地区でもあります。



MAYU

全国的に注目を集める低速電動コミュニティバス「MAYU(まゆ)」。
重伝建地区では有鄰館で乗降が可能です。
お問い合わせは 桐生市観光交流課 (0277-46-1111)まで。



「渡辺華山と桐生」

江戸時代後期の武士であり、思想家、画家としても傑出した才能を示した渡辺華山は、妹である茂登が桐生に嫁いだ縁で何度か桐生を訪れました。なかでも天保2年の滞在時の記録である「毛武遊記」には、当時の桐生の状況だけでなく庶民のくらしが生生きと描かれており、華山の文才が遺憾なく発揮されています。



地図の矢印(→)ルートでのまち歩きは、ゆっくり歩いておよそ2時間です。

①群馬大学工学部同窓記念会館・正門・守衛所 【国登録有形文化財】

大正5年に創設された桐生高等染織学校の講堂および正面玄関の一部で、昭和47年に敷地中央より現在地に移築、同窓記念会館として活用されています。建物は、木造二階建瓦葺、ハンマービームと呼ばれる独特の屋根構造を持ち、内外装から金具・調品に至るまで建築当初の姿を残しており、教会堂のように厳肅でありながらも華やいだ空間を創り出しています。



②天満宮 社殿【県指定重要文化財】 天満宮末社春日社【市指定重要文化財】



天正19年(1591)桐生新町創設にあたり、現在地に遷座されたと伝えられています。社殿は、江戸時代の神社建築に多い権現造で、本殿と幣殿の外壁には極彩色の装飾が施されており、内部にも彫刻や壁画を持つ北関東特有の近世社寺建築の特徴を良く伝えています。また、社殿背後にある、一間社流造、銅板葺の小規模な末社春日社は、天正から慶長年間推定(1573~1615)とされ、市内最古の建築として市指定の重要文化財になっています。
毎月第一土曜日は北関東一を誇る「天満宮骨董市」が日の出より日没まで開催されています。

見学の注意点

ここに掲載された建物等については、敷地外からの見学が基本となります。プライバシーの保護、施設の管理上からも詳細な見学は別途所有者等の承諾を得てください。

③森合資会社事務所 【国登録有形文化財】

大正3年金融業の建物として建てられました。屋根は銅板葺で、外壁に白磁タイルを使用した洋風の事務所です。

④第壹物産賣買所(買場・上市場)

現在も市場として使用された建物が残っており、「買場ふれあい館」として活用されています。天満宮骨董市と同じ毎月第一土曜日に「買場紗綾市」が行われています。

⑩ベーカリーカフェレンガ

旧金谷レース工業(株)工場・事務所【国登録有形文化財】

大正8年に建築された桐生に現存する唯一のレンガ造のノコギリ屋根工場です。レンガ壁はイギリス積みです。事務所棟は、昭和6年に建築され、木造二階建てスクラッチタイル張りで、窓や細部に至る意匠に昭和初期の洋風建築の特徴が見られます。二つを比較してみると、大正・昭和、各時代の流行の違いがよく分かります。

⑪旧斎憲テキスタイル工場

昭和2年に建築された、大谷石造のノコギリ屋根工場です。



⑫旧住善織物工場

大正11年に建築された、桐生に現存する唯一の鉄筋コンクリート造のノコギリ屋根工場です。現在は、5人の作家(岡・金原・田中・平田・丸山)の一字ずつを組み合わせて命名した、「工房・金田丸岡平」として利用されています。



⑬一の湯

一の湯は、当初隣接する織物工場で働く従業員のために浴場として建築され、近隣住民にも利用されていました。現在も市内に数少ない銭湯として営業しており、内部の風情豊かな空間は地域に愛されています。

⑭平田邸【国登録有形文化財】

大正3年(祐蔵は明治33年)に建築された建物で、この地域では平田邸と玉上薬局の2件だけのめずらしい蔵造りの店です。しっくい仕上げの壁と重厚な扉が美しさをいっそう引き立てています。

⑮玉上薬局(仁心誠堂)

文化3年(1804)に建てられたと伝えられており、妻入りのえびす造りの店は、現存する幕末の町屋として貴重な建物で、建物とともに江戸時代から続く薬種商です。

⑯有鄰館(旧矢野蔵群)

【市指定重要文化財】

⑰矢野本店店舗及び店蔵

【市指定重要文化財】



二代目矢野久左衛門が寛延2年(1749)現在地に店舗を構えて以来、桐生の商業に大きく寄与してきた土蔵等建物群です。現存する土蔵やレンガ蔵は、酒類・味噌・醤油などの醸造を行ってきたところで、江戸から大正期に建築されました。

⑱桐生からくり人形芝居館

明治から昭和時代、桐生天満宮御開帳で上演されました。日本芸能史を物語る貴重な文化遺産です。



⑤旧北川織物工場(無鄰館)

【国登録有形文化財】

敷地内の建物群は大正時代を中心に建築されたもので、ノコギリ屋根工場をはじめ、主屋、土蔵等が奥行き40間の地割の中に良好に残されています。北東側には、焼失した寄宿舎の防火壁とされていたレンガ耐火塙が今も残っています。現在はアーティストファクトリーとして活用されています。



⑥旧北川織物工場

このノコギリ屋根工場は無鄰館とともに旧北川織物工場でした。このノコギリ屋根工場の特徴は、採光面を南東に向けて建てられていることです。ノコギリ屋根工場は均一な自然光を取り入れるために北側に向けて建てることとその価値と特徴があるわけですが、この建物はその価値を逸脱している点で、市内でも珍しいノコギリ屋根工場です。

⑦旧曾我織物新工場【国登録有形文化財】

大正11年に建築された、大谷石造のノコギリ屋根工場です。北西方向に採光面を設け、通風用の丸窓飾りが特徴です。

⑧旧書上酒店(大風呂敷)

明治後期に建てられた旧書上酒店を1997年に同店に残っていた写真を元に再生した建物で、カフェとして活用されています。

⑨旧書上商店(花のにしはら)

明治期の桐生を代表する買継商「書上文左衛門」の商店店舗です。書上商店は、明治25年に横浜に支店をつくり、織物輸出業を開始、明治39年には上海へも出店しています。この建物の北西周辺にある蔵群は、かつては同商店のものであり、この一画で昭和27年から30年まで作家坂口安吾が生活をし、この地でその生涯を終えました。

A 前原 良太郎【1869年(明治2年)～1932年(昭和7年)明治・大正期の町長、市長】
警視庁勤務を経て、1909年(明治42年)桐生町長、1921年(大正10年)初代桐生市長に就任、市政の発展に尽力した。桐生の近代の夜明けを築いた。他に桐生町議会議員、山田郡議会議員、群馬県議会議員に当選した。

B 森 宗五郎【1845年(弘化2年)～1924年(大正13年)県議会議員、実業家】
1884年(明治17年)県議会議員当選、また桐生第一物産売買所を創設し、買場の繁栄を祈り稲荷を遷座した。

C 森 宗作(二代)【1863年(文久3年)～1932年(昭和7年)明治・大正期の実業家】
1883年(明治16年)森宗五郎の養嗣子となってその家督を継ぎ、1883年(明治22年)桐生町議会議員に当選、織物学校・高等女学校・高等染織学校・中学校の設立、岡公園の建設に尽力、1900年(明治33年)第四十銀行頭取に就任、桐生燃糸合資会社・合資会社桐生製作所・尚毛整織(株)・渡良瀬水力発電(株)・足尾鉄道(株)・桐生倶楽部の設立に参画した。



森 宗作(二代)

D 森 宗作(三代)【1884年(明治17年)～1955年(昭和30年)大正・昭和期の実業家】
二代宗作の遺業を受けて、群馬県農工銀行・群馬大同銀行・群馬県金融会社の役員、1933年(昭和8年)桐生消防組組頭、1939年(昭和14年)桐生警防団団長に就任したほか帝国飛行協会・桐生市農協・桐生市商工会議所の役員を務めた。

E 森 平三郎【1891年(明治24年)～1980年(昭和55年)教育者】
1926年(大正15年)桐生高等工業学校教授、1943年(昭和18年)米沢高等工業学校校長、1945年(昭和20年)工学博士、1953年(昭和28年)山形大学初代学長に就任する。

F 羽仁 五郎【1901年(明治34年)～1983年(昭和58年)昭和期の歴史家】
1926年(昭和元年)羽仁吉一の養嗣子となってその家督を継ぎ、1927年(昭和2年)日本大学・自由学園の教授となり、マルクス主義者として活躍した。1947年(昭和22年)参議院議員に当選、国立国会図書館の設立に尽力、1972年(昭和47年)桐生市へ蔵書1万3千冊を寄贈し、羽仁文庫となる。1966年(昭和41年)自伝「私の大学」で「自由都市・桐生」を広く紹介した。



羽仁 五郎

G 森 正雄【1906年(明治39年)～1980年(昭和55年)社会実業家】
1933年(昭和8年)有志らと共に医療組合運動を興し、1市10町村にわたって組合員を組織し、翌年2月諏訪町の森氏の所有地を提供し、桐生医療組合病院を開設、組合長に就任した。戦後、市町村に移管したが、1951年(昭和26年)～1980年(昭和55年)まで桐生厚生総合病院医療事務組合議会の学識経験者議員・議長としてその任を全うした。1947年(昭和22年)社会党の市議会議員として一期務めた。ほか地域社会の広い分野での公益活動に尽力した。

H 森 喜作【1908年(明治41年)～1977年(昭和52年)起業家、農学博士】
1943年(昭和18年)駒森農場(後の森産業株)を設立し「菌種駒の製造法」の特許を取得する。キノコにささげた生涯をおくる。桐生市名誉市民の称号が贈られる。

I コロムビア・ローズ(初代)【1933年(昭和8年)～昭和期の歌手】
1951年(昭和26年)日本コロムビアの全国歌謡コンクールの県大会で1位となり県代表となる。全国決選大会でも優勝し歌手デビューした。ヒット曲は「どうせひろった恋だもの」「東京のバスガール」など数多い。幼くして桐生市本町一丁目の斎藤家(現関根ギターの)養女に入り、歌手デビューまでを過ごした。北小学校が母校。



コロムビア・ローズ

J 相澤 忠洋【1926年(大正15年)～1989年(平成元年)昭和期の考古学者】
戦後桐生市本町一丁目に住み行商のかたわら1946年(昭和21年)から群馬県内縄文早期の遺跡の調査を行い、翌々年笠懸村(現みどり市)岩宿で関東ローム層から石器を発見した。1949年(昭和24年)に明治大学教授杉原庄介らがここを発掘し、日本に縄文土器以前の石器文化が存在したことを実証した。これ以降、各地で縄文文化以前の石器文化の存在が明らかにされた。旧石器発見の功により吉川英治賞を受賞した。



相澤 忠洋

K 長澤仁衛門(紀綱)(長澤家三代)【1750年(寛延3年)～1800年(寛政12年)】
(江戸中期の漢学者、絹買商人)

事業のかたわら儒学者山本北山に師事して漢学を修業、書を東江源齋に学ぶ。1788年(天明8年)家督を継ぎ、1789年(寛政元年)出羽国松山藩酒井家御用達を務めた。1791年(寛政3年)下久方村の天満宮境内に私設図書館である潺湲舎を建てる。

L 星野 貞暉【1768年(天明8年)～1835年(天保6年)江戸後期の歌人】
国学者橋千蔭、高田与清、清水浜臣に師事して和歌・国文を学び、秀歌を残した。後に近郷の子弟を教えた。吉田清助に影響を与え、桐生国学の祖となった。桐生新町役人を務め、出羽国松山藩酒井家陣屋の普請に寄与する。また、書上文左衛門と些細なことで争論し、役職を辞任した。

M 坂口 安吾【1906年(明治39年)～1955年(昭和30年)昭和期の小説家】
1931年(昭和6年)雑誌「青い鳥」を発売し、「風博士」「黒谷村」を発表。文壇に認められ、1946年(昭和21年)「墮落論」「白痴」などを書いて流行作家となった。友人の南川潤の勧めで1952年(昭和27年)桐生市本町二丁目の書上家に來住、「夜長姫と耳男」「桐生通信」「信長」「馬庭念流訪問記」などを書き、この地で亡くなった。



坂口 安吾

N 書上三郎左衛門勝郷(書上家三代)【生年不詳～1719年(享保4年)絹買商人】
1684年(貞享元年)京都の絹問屋に桐生絹を出荷する。また、江戸とも絹取引を始める。1697年(元禄10年)から1719年(享保4年)までの22年間桐生新町の名主を務める。

O 書上文左衛門祐介(書上家十一代)【1864年(元治元年)～1914年(大正3年)買繰商人】
岡千仞に漢籍、中江兆民にフランス語を学ぶ。1890年(明治23年)書上文左衛門の養嗣子となってその家督を継いだ。伊勢崎・足利・佐野に支店を設置、1892年(明治25年)横浜へ支店をつくり輸出織物直輸入業を開始し、1906年(明治39年)に上海に出店した。1898年(明治31年)桐生物産同業組合組長となった。1911年(明治44年)「書上タイムス」を創刊する。また、高等女学校、織物学校、桐生高等染色学校の誘致に尽力した。



書上文左衛門祐介
(書上家十一代)

P 書上文左衛門史郎(書上家十二代)【1891年(明治24年)～1972年(昭和47年)大正・昭和期の織物買繰商人】
1914年(大正3年)遺業を受け織物買繰商を経営、大戦中の企業整備などの苦境の中で成果をあげ業界に知られた。1921年(大正10年)桐生市議会議員、1931年(昭和6年)群馬県議会議員に当選し地方自治に貢献、書上家伝来の古文書類3千余点を寄贈した。戦後、文芸作家坂口安吾のスポンサーとして面会をみる。

Q 野間 清治【1879年(明治12年)～1913年(昭和13年)大正・昭和初期の実業家】
1900年(明治33年)山田第一高等小学校訓導、1902年(明治35年)退任、1904年(明治37年)沖繩中学校教諭となった。1909年(明治42年)大日本雄弁会を起こし、雑誌「雄弁」を創刊、1911年(明治44年)講談社を設立し、「日本の雑誌王」と呼ばれた。北小学校において若き日に教鞭を執った。



野間 清治

R 古木 四郎兵衛【生歿年不詳 桐生新町組頭】
1859年(安政6年)、如來道村の津久井儀右衛門と篤羅訴。四郎兵衛は大老いしやものかみおぼすけ まなべしもうさのかみあきかつ 井伊掃部頭直弼へ、儀右衛門は老中問部下総守詮勝に単身生糸輸出禁止を訴えるがお咎めなしの裁決となった。

S 戸田 邦仁【1890年(明治23年)～1946年(昭和21年)日本初の女性医化学者】
女子医専(現東京女子医大)在学中、開業医資格国家試験に合格したが、同校にとどまり、医化学の分野を専攻する研究者を志し、同校出身者として初めての助教授となる。1929年(昭和4年)ウィーンに留学、帰国後の1932年(昭和7年)同校の教授に就任した。

T 矢野 久左衛門(矢野家初代)【生年不詳～1736年(元文元年)近江商人】
屋号「近江屋」の名で1717年(享保2年)桐生新町二丁目で雑貨、金融業を始める。質素倹約で、家業に精を出して働き「日野の千両店」と呼ばれる。



矢野久左衛門肖像

U 岩本 茂兵衛(岩本家三代)【生年不詳～1855年(安政2年)】
3回の渡辺山道の来桐の世話をする。桐生新町二丁目で絹買商を営む。絹買商人として江戸の田原藩下屋敷に出入りした。渡辺山道の財政支援者の一人。妻と茂登は山道の妹であった。

V 前原 一治【1900年(明治33年)～1968年(昭和43年)昭和期の実業家、市長】
1932年(昭和7年)日本絹織株式会社へ入社してその経営にあたった。1942年(昭和17年)桐生市議会議員、1947年(昭和22年)桐生市長に当選、新制中学校の建設、風水害による被害、産業文化会館の建設などの難事業を処理して、1963年(昭和38年)辞任した。後に群馬県監査委員を務める。桐生市名誉市民(第一号)の称号が贈られる。

W 田村 梶子【1785年(天明5年)～1862年(文久2年)江戸後期の教育者】
享和年中、幕府の祐筆となり、文化年中に帰郷、林兵衛直恒を夫として迎え織物業とする。そのかたわら1829年(文政12年)下久方村で私塾「松声堂」を開き、習字・和歌・作法を教えた。門下生に島隆、前原照子、望月福子らがいる。

X 新居 日隆【1830年(天保元年)～1888年(明治21年)幕末・明治前期の日蓮宗の僧侶】
1848年(嘉永元年)加賀国金沢の立像寺日蓮上人の充活園で学び、東京駒込の蓮久寺へ入り子弟に講義した。1874年(明治7年)身延山久遠寺の住職となり、一致派管長に推され、日蓮宗の宗名を定めた。孤児養育の福田会育児院の設立に尽力した。1880年(明治13年)山田郡下久方村へ寂光院を移転させた。